

教師を育てた 言葉たち

No. 008

愛媛県立松山北高校

大谷修一先生

おおたに・しゅういち

◎教職歴 33 年。同校に赴任して 6 年目。
進路指導主事。理科。

愛媛県立松山北高校 全日制／普通科／共学
／1 学年約 360 人／2018 年度入試合格実績
(現役のみ): 国公立大は、千葉大、東京学
芸大、名古屋大、金沢大、愛媛大、熊本大など
に 178 人が合格。私立大は、明治大、立命館大、
同志社大、松山大などに延べ 689 人が合格。



新 採用で赴任した進学校に 3 年間勤務した後、実業高校に異動しました。教師になって 4 年目、担任として、また教務担当として、少し先のことを見通せるようになり、「もっとよい声かけ、指導ができるようになりたい」「先生方が負担を感じず、もっと動きやすい時間割をつくれるようになりたい」と向上心、欲が出てきたことを自覚していました。一方で、実業高校の生徒への指導、そして「女子クラス」の担任と、初めてのことも重なり、「今、この場面での声かけ、指導は、本当にこれでよいのだろうか」と悩んでしまうことも多くありました。当時の私は物事を一生懸命に考えすぎていて、「石橋を何度もたたいてなかなか渡ろうとしない状態」になっていたのです。そして、生徒やほかの先生からは「静かな先生」と思われていたはずです。

異動先では化学の教師は私だけでしたので、化学準備室では大抵 1 人で過ごしていました。そんな私を見て、赴任したばかりで寂しいのではないかと思ってくださったのでしょうか、隣の地歴・公民準備室の先生方が「こっこの部屋においでよ」「お茶を飲みながら話そうよ」と声をかけてくださるようになりました。教科も、年齢も違うため、最初は遠慮していましたが、ある時ふと、話をしに行ってみようと思いつき、先輩先生たちの元に足を運ぶようになりました。

先 輩先生たちは、前任校との違いに戸惑い、悩みや不安を抱える私をいつも笑顔で迎え、励ましてくれました。あれこれとアドバイスをすると

いうよりも、私の話にしっかりと耳を傾けてくださり、「大谷先生の趣味は『悩むこと』だからなあ！」と笑い、いつの間にか私も一緒に笑顔になっていました。そんな中で 1 人の先輩がかけてくださったのが「**迷った時は GO!** だよ」という言葉でした。動き始めてからでも修正はできる。迷っているという表情を見せずに元気に振る舞うことで生徒の元気を引き出せる……先輩先生たちはいろいろなことを教えてくださいました。

「迷った時は GO!」は自分自身の行動だけでなく、生徒への声かけも変えていきました。進学希望者の多い学校に異動し、出願校決定のための面談が多くなると、生徒の背中を押す際にこの言葉をよく使うようになりました。もちろん、選んだ道を元気に進んでも、望んだ通りの結果にならないこともあります。そんな時も私は、「よし、次と一緒に考えよう！反省はしていいけれど、後悔をする時間はないよ！」と常に前を向こう、自分が決めた道を最後まで一緒に進んでいこうと声をかけます。それが、生徒の背中を押した教師としての責任だと思っていますし、「成功のために、次はどうすればよいか」を考え続けている限り、失敗ではないと思っています。

以 前、高校教師の研修会に参加した時、ある先生が「元気な教師から元気な生徒が育つ」と話されるのを聞き、私はうれしくなって「そうそう！迷った時は GO! なのだから！」とニヤニヤしてしまいました。25 年以上前に思いがけず出合った言葉、考え方は、今も私の軸になっています。